

◆笠鉾（かさぼこ）～八代にしかないオリジナルの形～

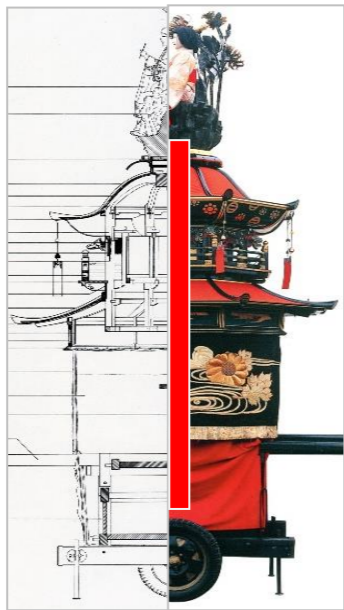
笠鉾は、八代城（今の八代宮の所）の回りにあった町（城下町）から9基出されます。

笠鉾はもともと、一人で持つ大きな傘でした。傘の上には町の名前の付いた飾りが付いていたので、すぐにどこの町のものかわかりました。そのあとに二段の傘で上に人形の飾りをつけた四人で持つものになり、そして今のような形へと変わってきました。笠鉾は、2階建ての建物のように見えます。けれども、中を見ても柱は一本しかありません。最初の一人で持つ傘をそのまま大きく、豪華にしたのが八代の笠鉾なのです。



さいしょ 笠鉾 最初の人  
⇨最初の笠鉾（想像図）

この笠鉾を支えるのは、1本の柱です。



笠鉾は、250～300個の部品に分かれています。毎年祭りの前に組み立てをして、終わるとすぐにバラバラにして町の倉庫になおします。

毎年組み立てるため、部品と部品をくっつけるのに、穴の開いてしまうクギは使えません。コミセンと呼ばれる竹の棒を差し込んでくっつけます。

コミセン



笠鉾の上の飾りは、町の名前の付いたものから、不老長寿（元気で長生き）、商売繁盛（お金持ちになる）、天下泰平（平和に暮らせる）など人々の様々な願いが込められたものによって変わっていききました。ただ一つ町の名前にこだわったのが、城下町の中心の町、本町の笠鉾です。



笠鉾菊慈童（宮之町）

お経の文句を書いた菊の葉にたまった露を飲んで不老不死の仙人になった少年の話が元になっています。



笠鉾本蝶蕪（本町）

本町の「町」を同じ読みの「蝶」に変えて、本蝶＝本町にして本町が栄えるようにという願いが込められています。



笠鉾蘇鉄（二之町）

蘇鉄は、葉の形が鳳凰（想像上のおめでたい鳥）の尾に似ていることから「鳳尾蕉」とも呼ばれます。



笠鉾西王母（通町）

西王母は、中国の崑崙山にすむと言われる女神です。その庭の桃の木は、3000年に1度実をつけるといわれ、皇帝にその実を授けたという話が元になっています。



笠鉾猩々（紺屋町）

猩々は、お酒が好きな想像上の生き物。親孝行な青年に、酒が湧き出てくる不思議な壺をあげたという話が元になっています。



笠鉾蜜柑（中島町）

蜜柑は、不老不死の薬と昔は考えられていました。中島町の蜜柑は、高田蜜柑です。



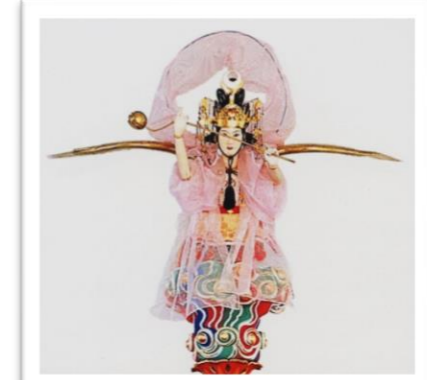
笠鉾恵比須（徳淵町）

恵比須は、人々に幸せをもたらしてくれる七福神の一人で、豊漁の神様です。



笠鉾松（平河原町）

菅原道真（平安時代の人）を大宰府（福岡県）まで追いかけて来た松の話が元になっています。追い松＝老松（長生きの松）となりました。



笠鉾迦陵頻伽（塩屋町）

極楽（仏さまが住む世界）にすむと言われる想像上の鳥。上半分が人で、下半分が鳥。とてもきれいな声で鳴くと言います。